



いずみ

令和2年5月1日発行

<学校の教育目標>

かしこい子

やさしい子

たくましい子

チーム和泉

(Tel) 3480-3881 (Fax) 5497-7358 (HP) <<http://www.komae.ed.jp/ele/izumi/>> 校長 伊藤 栄司

長いトンネルの向こう側

校長 伊藤 栄司

狛江市名産ブルーベリーの花が満開になりました。釣り鐘型の小さな白い花が枝いっぱい咲いています。やがて一つ一つの花が青紫色のブルーベリーの実に生長するかと思うだけで、甘酸っぱい味が蘇るようです。毎年、通勤途中に見る変わらぬ風景がこれほど美しく感じたことは今までありませんでした。休校が始まってから2か月以上が過ぎ、何気ない日常がいかに尊いものであったかを感じる毎日です。

人を分断させる恐ろしい副作用

「新型コロナウイルスの脅威は感染力の強さや致死率の高さだけでなく、人と人を引き離す、人と人との関係を断ち切る破壊力も忘れてはならない。」と作家の辻仁成さんが朝日新聞※に寄稿していました。学校は人と人をつなげる場でもあるので、この副作用に一番ダメージを受けています。補習授業はできないか、教材を取りに来てもらえないか等、できることを考え実行しようとするソーシャルディスタンスや3密の壁が立ちはだかります。

「時間があるから子供たちを集めてサッカーを教えたい」「図書室を開放したらどうだろう」など提案していただくこともありましたが、3密の壁を容易に超えることはできませんでした。

ゴールが見えない苦しみ

自宅からは極力出ないことが一番大切なので、先生方は自宅勤務をしています。校長と副校長も感染防止のため交代で出勤し、万が一の感染に備えています。幸い、狛江市教育委員会の計らいにより、リモートワークができるように学校と自宅のコンピュータをつないでくれたので、簡単な事務作業や教材づくりは在宅でもできるようになっています。

先生方は、1日も早く子供たちと一緒に授業がしたいと思いながら過ごしています。授業再開の出口が見えかかると、また伸びてしまうことが何度も繰り返され、子供たちとの再会の日が遠のくことにいら立ちを感じながらも、元気な姿が今は一番大事なことと肝に銘じ自宅勤務に耐えています。

道を照らす小さな明かり

長いトンネルはまだまだ続きそうです。授業が再開しても様々な制限が課せられることも予想できます。今、できることとして授業のネット配信準備を進めています。タブレットやWi-Fiの貸し出しも行いますので、自宅での学習の幅が少し広がります。できることを少しずつ行い、授業再開のゴールに向かって歩を進めていきましょう。授業のネット配信は道を照らす小さな明かりになると同時に、トンネルを抜けた向こう側にある新しい教育活動の一步になると確信しています。

※令和2年4月22日(水)朝日新聞 朝刊 寄稿「パリに差した光」作家 辻仁成より

5月の行事予定

5月31日まで臨時休業です。(5月11日現在)
5月の予定は状況に応じて、変更します。
学校ホームページ等で最新の情報をご確認ください。